

第1回協働推進委員会記録

日時	平成30年7月5日(木) 18:30~20:50
会場	豊明市役所本館3階会議室2
出席者	委員：青山孝司、浅田利一、石山英明、市野恵、小池田忠、小島博司、榊原優、羽田道信、青木康子、三矢勝司、(以上10名) 豊明市：市民生活部長、市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員(1名) 傍聴者1名

議事

1 委員長あいさつ

2 自己紹介

3 報告事項

(1) 今年度のスケジュールについて

- ・資料1に基づき、事務局より提案。

原則、資料1のとおり平成30年度の協働推進委員会を進めていくこととなった。

(2) 拠点検討委員会の進捗状況について

- ・資料2に基づき、小島委員より報告。
- ・市民交流センターの立ち上げに向けて、ワークショップで市民意見の吸い上げや、他市町のセンター視察等を行っている。
- ・7月7日(土)に第3回ワークショップを開催する。
→ワークショップに参加してくれた人の中から、一緒に運営をしてくれる仲間を探している。

4 協議事項

(1) 市民交流センターについて

- ・資料3に基づき、事務局より説明。
- ・幅広い市民ニーズに応えられるよう、視野を広げた市民交流センターとしてほしい。
- ・運営については、市民中心の団体が運営することが望ましいが、当面は市民協働課の全面的なバックアップが必要である。

ア 財源について

- ・当面は、市の財源を利用する予定。
- ・将来的には、研修会等により収入を得ることを考えている。
- ・他市のセンターでは、学校の校舎の貸出事業により収入を得ているところもある。

イ 機能について

- ・時間設定が、平日の昼間（9時から17時）を想定しているが、普段仕事している人が仕事終わりに相談に来ることができる時間設定をしたらどうか。
→将来的には検討していく。
- ・市民活動室の予約方法は今までどおりを想定している。
- ・まずはセンターとして機能することが大切。
- ・センター運営を通して、実績を積み重ねていくことが大切。
→様々な事業を任せたいと思ってもらえる団体にしていく。

(2) 協働ラベリング調査分析結果の活用方法について

- ・資料4に基づき、事務局より説明。
- ・市が求める協働レベルを各課に示しているか。
→まずは協働ラベリングを浸透させていくことを目指している。
→協働レベルは各事業における協働の段階(形態)を示しているということを確認してもらう。
→将来的には、協働レベルという表現の仕方を変えるかどうか検討する。
- ・東海市のまちづくり指標では、目指すものに矢印(↑→↓)表記があり、分かりやすい。
→めざすまちの姿と現在の事業を比較すれば、矢印を示すことができるのでは。
- ・レベルアップ事業に挙げられた事業と目標レベルについて、市民協働課の見解(妥当かどうか)を担当課へ伝えたほうがよいのでは。
- ・協働を推進している市民協働課と各課とのコミュニケーションツールが協働ラベリング。
- ・協働レベルを設定する際に、4に近い3という設定の仕方もありなのでは。
- ・各課にとっては、協働の手法をどのように事業に取り入れたのかが分かる、取り組み前と取り組み後の情報が欲しいのでは。

5 その他

第2回協働推進委員会は、会議内容を調整後、改めて日程調整する。